国立国語研究所学術情報リポジトリ

本号の読みどころ

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2019-03-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://repository.ninjal.ac.jp/records/1884

◆◇◆◇◆◇◆本号の読みどころ◆◇◆◇◆◇◆

◇研究論文：金　宥暻「韓国人日本語学習者を対象とした日本語の文構成能力に関する研究」

論理性のある文章を書くには，文法や語彙の知識を正確に運用できるだけでは十分ではないことは自明です。では，良い書き手であるためには何が必要なのでしょうか。これまでの研究において，文章を書くための特別な能力が必要である，学習者の母語での書く能力が影響するなど，いろいろな考えが示されて来ました。

この研究は，先行研究での問題点を考慮しつつ，論説文配列の課題による調査を行い，「日本語と韓国語の文章構成は異なっているか」と「韓国人日本語学習者の日本語能力と日本語の文構成能力との関係はあるか」についての検証を通じて，韓国人日本語学習者が日本語の良い書き手となる方策を考えようとしたものです。なお，論説文に接した経験については今後の課題としています。　（柳澤好昭）

◆報告：王　　沖「副詞『きっと』の習得に関する研究－中国人日本語学習者における典型的用法から考える－」

中国人日本語学習者は，副詞「きっと」を「私はきっと通訳者になりたいです」や「問題の内容にきっと気をつけてください」などのように不適切に使うことがあります。これは，中国人日本語学習者が「きっと」の使用可能な範囲を日本語母語話者より広く理解していることによるようです。この報告では，この点について，いくつかの調査を行って検証しています。

この調査研究の特徴は，その方法がたいへんわかりやすいことです。とくにはじめに行っている「母語話者と学習者に『きっと』を使った文を自由に作らせ，そこに出てきた例を比べる」という調査の結果は，母語話者の例文に典型的に見られる「きっと」の用法と学習者の例文に見られるものとが大きく異なることをはっきり示していて，なるほどとうなずかされます。それがどう違い，その違いがどうして生じているのかについては，どうぞ本文をお読みください。　（阿久津智）

◇報告：柳町智治・副田恵理子・平塚真理・和田衣世「辞書検索能力を養成する初級漢字カリキュラムの理念と実践」

漢字指導の内容と方法については，今までも様々な教育実践が紹介され，各種の教材が開発されてきました。漢字を一つ一つ楽しく覚えるための教材，あるいは，コミュニケー

ション上の目的を意識した教材は，参考となるものがすでに数多くあります。しかし，それでもなお，漢字指導をコースの中にどう位置づけたらいいのか，何を目標とすればいいのか，漢字圏と非漢字圏の学習者が混在するクラスをどう運営したらいいのか，といった悩みを抱える教師や教育機関は少なくありません。こういった状況の中で，本稿は，漢字辞書の検索能力を養成する活動を集中的かつ継続的に行うことによって，その授業の中で教えられた漢字以外の漢字に対するレディネスや自立的学習能力を高めることができるという考えに基づき，どういったカリキュラムを組み立て，どう実践したかを詳しく紹介しています。「扱える漢字語彙の拡大」を目指した本カリキュラムは，漢字学習の長い道程を大きく変える可能性を持っていると言えるのではないでしょうか。

ある教育実践の理念・目的・内容・方法・結果を，簡潔にわかりやすく記述することは実践研究の基本です。本稿については，「結果」をより詳しく知りたいという思いは残りますが，それは今後の課題としてとらえ，実践研究の１つのモデルとしてお読みいただければと思います。

（金田智子）

◈研究ノート：俵山雄司**「『こうして』の意味と用法－談話を終結させる機能に着目して－」**

本論文では次のことが論じられています。

(1)「こうして」には，動詞「する」の意味を残し，「こう＋した」と分析できる様態修飾的な「こうして」と，全体で接続詞的に機能する「こうして」がある。(2) 接続詞的な「こうして」は，「その結果」と言い換えられる「要因－結果」型と，言い換えられない「結果－解釈」型に分類できる。(3) 接続詞的な「こうして」は，談話（文章）を終結させる機能を持つ。

様態修飾的－接続詞的，「要因－結果」型－「結果－解釈」型という分類は連続的なところがあると思われますし，「こうして」が談話（文章）を終結させるという観察についても，「談話（文章）の終結」ということについて，より具体的な規定が必要だと思われますが，全体の観察は概ね妥当であり，学習者の作文教育に役立つ観察を含んでいると思います。

本論のような語法研究の研究ノートが着実に蓄積されていくことは，日本語教育において，教育実践の報告が着実に蓄積されていくことと同じくらい，重要なことであると思います。

（井上　優）